

## 令和4年度 第1回津山市史編さん委員会議事録【要旨】

日時	令和4年7月29日（金）13時21分～14時53分	場所	津山市役所 第2委員会室
<p>◆出席者</p> <p>【委員】 定兼委員、尾島委員、首藤委員、久野委員、前原委員</p> <p>【津山市】 総務部長、津山市史編さん室長、室長補佐 ほか8名</p> <p>◆欠席委員 在間委員、今津委員、狩野委員、白石委員</p>			
<p>1. 開 会</p> <p>2. 総務部長あいさつ</p> <p>3. 令和4年度の事務局体制について</p> <p>4. 報告事項</p> <p>（1）令和4度の編さん事業予定</p> <p>（2）各部会の開催、進捗状況</p> <p>（3）資料編「古代・中世」の刊行について</p> <p>5. 協議事項</p> <p>（1）通史編「自然風土・原始・古代」の刊行について</p> <p>（2）その他</p> <p>6. その他</p> <p>7. 閉 会</p>			
事務局	令和4年度第1回津山市史編さん委員会を開会（13:21）		
部長	総務部長あいさつ		
事務局	出席者の確認。在間・今津・狩野・白石委員の4名が欠席で、9名の委員のうち5名、過半数の出席で会議の成立を宣言		
委員長	委員長あいさつ		
◇報告事項 （1）令和4度の編さん事業予定			
事務局	津山市史編さん室職員より説明		
委員	資料編「考古」「古代・中世」とか出ているので、その本のこういう資料が面白いと紹介する機会という意味でも、美作学講座のテーマに設定したり、そこで出店のような形で本		

を売る、工夫して本が出たということが皆さんに直接伝わるような機会にすべきでは。

事務局  
委員 今後のテーマ選定においてご意見を反映すべく協議し善処したい。  
「市史だより」は何部、どこを対象に出しているか。「市史研究」の部数はどのくらいか。

事務局 「市史研究」は 600 部、うち 460 冊程度を関係機関に配付し、残りを一般に頒布販売している。「市史だより」は 1,700 部印刷し、ほとんどを関係機関、市内公民館、県外も含めた研究機関とかに配付している。保存用に 100 部程度が残っている。

委員 「市史だより」も、新しい巻が出たら特徴だとか、巻のセールスポイントとかを出すとかして、市内の人が見たときにわかるような発刊に準じた内容があればいい。他の博物館が出している便りと似てきている気がする。市史だよりに載せる内容はもっと簡単に、こういうことが書いてあると資料紹介するとか、次に出る市史はこんな特徴とか入れてたらいいのでは。

委員長 「市史だより」「市史研究」も編集方針を明快にした方がいいと思うので、事務局で今の意見を踏まえた形でぜひお願いします。行き当たりばったり寄せ集めの形で、その時にある原稿を出してるような気がする。シリーズだから「市史だより」の中でも刊行物の予定とか、ぜひ紹介して。  
あわせて「市史研究」の方も、原稿の投稿をお願いするアナウンスをするとか、事前に今年度はどういうものを頼むか、誰に依頼するかということ事務局でしっかり練ってもらいたい。  
できれば中世資料編の書評なんかをしてもらえると有難い。編集方針を事務局できちっと叩いて。

事務局 刊行されたものについては直近の「市史だより」に掲載し、内容にも触れて案内している。

#### ◇報告事項 (2) 各部会の開催、進捗状況

事務局 【資料にて説明】

委員長 今年度に版下を準備している「自然風土・原始・古代」のところ、翌年が刊行、次が近現代の資料編。この近い部会が大変な状況だが、事務局の体制はどうか説明を。

事務局 体制は名簿のとおり。本務の方がまず忙しい、本務の仕事の合間を切り分けながら、市史の編さん業務にも携わっている。なかなか整理、取りまとめに集中できる時間がないが、その時間でみながらやってる。他の部会についても、それぞれ本務をもって、各自の事業内容、手持ちの仕事を切り分けながら、それぞれ全力でやってもらっている。  
事務局体制については、従前から一つの箱の中で収まっている形ではなく、現在、私が弥生の里に、室長補佐が洋学資料館にいるという形で、事務局そのものは編さん室長の所属する館になっている。事務関係は再任用職員、資料調査全般は会計年度職員ということで、今後、進捗状況によって急ぐ業務も当然発生すると思うので、その都度フレックスに動いてもらう。

委員長 前回の委員会でも発言があったが、市史編さん事業の公文書、集めた資料は、市史編さん事業というキャビネットの中に置いているのか。会議録なんかもそれぞれの担当で持っているだろうけれど、一つの市史編さん事業という棚を作ったらという意見があったが、その後どうしているか。

事務局 事務局が弥生の里、個々の部会の資料はそれぞれの担当の館で一括管理している。

委員長 一つの本を出すのに、古代と考古の担当者が別の館にいる、どういうふうにしてるんだろうかと不安な状況がある。

事務局 箱が違うのと、勤務の関係で土日が休み、土日開館とか、職員の休みのローテーションの関係もあつたりで、電話をかけてすぐにはならないケースが時にある。その場合には先にメールを送って、あとで確認をとりながらとか、その状況に応じてやっている。

委員長 版下作成は一つの業者がするのに、業者を困らせないように。

委員 例えば編さん事業全体の歴史みたいなものが検討されるような時に、すぐにこの資料を見たら書けるような、慌てなくていいような準備を編さん過程の間にしておくのが大事。

人が変わると前任者が何をしてたかわからないことに。編さん事業は時間がかかるから、そういうことのないよう心構えと準備は機械的にでもやっておいていい。

編さん事業は、本を出すことだけでなく、本を出すことに関わる様々な地域の歴史遺産を発掘する文化運動というのか、ムーブメントみたいなものだと思う。本を出すまでは一生懸命資料を探して調査したけれど、本が出たらその資料がどこにいったかわからなくなることがしばしば起こりがち。現在行っている資料整理が、市史ができた後も使えるよう、継続的な調査が将来にわたって進められるよう手順というのか、現物をどうするのか、公開をどうするのかということや、調査をした人の経験、ノウハウとかをどういうふうに次の人に引き継いでいくのかみたいなことも大事なポイントになる。そういうリーダーシップをとれる事務局であってほしい。

委員長 執筆をお願いしてる人達、基本的には執筆したページに合わせて謝金を払うということだった。調査と分析と執筆というのは、どこで住み分けるのかわからないが、執筆者に仕事をお願いしていても、活字になる成果物だけでお金を払うということだったら…。いろんな方をお願いする以上は、仕事ぶりはどうかという把握までしてもらえたらという気がする。やってるわけだから何か支弁する方法を考えてみてほしい。

#### ◇報告事項 (3) 資料編「古代・中世」の刊行について

事務局 **【資料にて説明】**

市関係者、市内の公民館や学校、県内の教育委員会や図書館、歴史系の施設や大学図書館、協力者・協力機関、友好交流都市など合計 234 冊を贈呈している。

この 7 月 15 日から販売を開始し、1 冊税込み 4 千円、今後 A5 判で刊行する本編は、この金額で統一したい。今回印刷した 1,000 冊のうち 250 冊を贈呈用、残り 750 冊を一般頒布用として郷土博物館と市内各書店で販売する。

委員 他県の大学には全然贈ってないのか。前に出た考古編について、九州や東北の方からどこで見たらいいかというようなことを聞かれた。我々が思ってる以外に、いろんな方が注目してる面もあるので、少なくともブロックごとには基幹大学とかにあってもいいという気もするが難しいか。

事務局 図書館系は県内、県内の研究機関と大学が基準。それら以外については、近県ぐらいが目安でお贈りさせてもらっている。ご指摘いただいた遠隔地については、全体の刊行部数の関係があるので、苦しいというのが実情。

委員長 郷土博物館の刊行物は他県の方にも随分交換してる。

事務局 ベースは郷土博物館がやりとりしてる所だが、巻の内容によって精査しながら贈らせて

もらう。連絡いただければ何らかの対応をさせてもらう。

実際に遠隔地の図書館から交換してもらいたいというお話をいただくケースがある。基本的に対応して、次回以降はお互いに交換でと話している。

委員 買いたいという人がいた場合は、事務局に連絡というのが原則か。

事務局 一般向け販売は郷土博物館で一括、市内なら一般書店もお知らせしている。

委員 以前、自治体史がかなり出た時期は、学術雑誌に広告を出すとか、そういう形で私らも遠隔地のものを買うのもあった。そういうのも一つ方法ではないかと思う。今、学術雑誌の広告出すものもかなり下がっているので検討しては。

委員長 刊行に努力された担当者の所感を。

委員 全体としてやっぱり印刷の組が、資料編の場合はなかなかこちらのイメージどおりに上がってこないということが随分あった。こういう風な組み方にしないといけないのかという印象はある。それと製本の本を開いた時の落ち着きがあまりない、閉じてしまうというか。本編はきちっと言った方がいいんじゃないか。

写真を入れたことによってお金が余分にかかるということではないみたい。写真の出方の技術は随分進んだ感じがある。執筆者、先生方が随分、校正にご苦労されたと思う。

委員 資料編の活字を組むのは、印刷屋に特殊な技術が必要だと思うが、わからないところが引き受けたというのがあって、最初のところで訂正していく作業がかなり膨大にあって、執筆者も多くなかったのも、一人ひとりの負担が大きかったという印象は持っている。

実際に本ができてみるとやはり間違いがある。よく見たつもりでもあると思うので正誤表を早く、わかったものについては作っていく、誠実さを出していきたい。

墨書土器とか木簡とか、或いは市内文書の写真が全部載ってるとか、他の自治体史に比べて少しサービスしてる面があるので、そういった特徴とか、面白さ、新しい資料が入ってるというのを訴える場があれば効果的に売れないか。

委員長 オペレーターも冊子を作ることによって鍛えられる。そういう意味では、だんだん最後にはわかるようになってくるが、入札だからその都度指導していかなきゃならん。

基本的に常用漢字にしてるのか。最初の本簡部分で、広野の広は古い字で「廣」、川辺の辺は常用の「辺」だけど木簡が古い「邊」。どっちで統一するのかわかるところが最初のところであった。基本的には常用と思ったが、そのあたりは何度も見直して議論した上でされているんでしょうけど。

委員 原則を当ててるはずですが。

委員長 木簡資料でも出発の本簡研究の方ではこういうタイトルだったからそれを曲げてはいかんというのがあるかもしれないが、ちょっと統一感が。

正誤表がある本は誠意がある本。見るかどうかは別として、正誤表は是非作っていくように。

事務局 一番最初にした考古資料編があまりにも件数が多いということで、在庫には付けていくのは当然ですが、例えば電子データにするとか、何らかの形で対応するように考えたい。

委員 正誤表について。実は市民や読者からいろいろ指摘を受けた。考古資料編でわかっているだけで240カ所ぐらいある。間違いはあり得ることなので、特に考古資料編はたくさんの方がかかわっているし、急いで作ったのでしょうがない面もあったと思うが、2020年の秋ぐらいに考古資料編ができて、最初に140カ所ぐらい間違っているという指摘が市史編さん室に伝えられたのが、その年の12月末。それから1年8カ月放置され、しかも240カ所あることがわかってきて、その市民に対して誠意が感じられない。

もう一つは学術性が担保されていない状態が続いていることが、津山市の信頼性に関わることだと心配している。税金を使ってやってる事業でもあり、少しでも市民の利益になるような、或いは学術性が担保されるようなところはやってほしいし、なぜ1年8カ月、ホームページに載せるとか、そういう動きにならなかったのか残念でならない。

購入された方、寄贈された方のところに、どういう形で正誤表を届けられるか課題として残ってる。長い間ほったらかしてたことは自覚し、次からはないようにお願いしたい。

委員長 何らかの形でリアクションはした方がいい。

#### ◇協議事項 (1) 通史編「自然風土・原始・古代」の刊行について

事務局 【資料にて説明】

今年度、版下作成を行う通史編の「自然風土・原始・古代」の仕様はA5判の巻頭カラー20ページ、本文710ページということで、1ページあたりの文字数は1行48文字17行で816文字の縦書きという形。図表や写真などが合計で約310点程度になる予定。

スケジュールについては、別添資料の3に令和4年度1年間の作成スケジュールを表にしている。去る7月13日に市の指名委員会を経て、8月20日ごろに契約できる見込み。校正作業の状況により、関係する部会を随時、開催する予定。

事務局 3月31日が締切だったが、原稿がまだの方も多数おられたので5月末締切にし、その時にはかなりの方に出してもらった。7月13日の指名委員会までにはその仕様書とともにページ数を確定したいということがあったため、図と写真の点数を6月の末ぐらいに確認し、それに基づいて仕様書を作り、指名委員会にかけた。

本文に関しては、本来決めていたページ数よりも大幅にオーバーした方もあったので、既定のページ数プラス10ページ前後ぐらいで収まるよう切り詰めてもらい、それに対してまた修正をしてもらったり、今もそういうやりとりをしている状態。

内容については、事務局の方でも、もう少しこう触れてほしいとか、言い回しを簡単にしてほしいとか、事務局の内部と部会長・副部会長にも見てもらおうと思っている。

委員長 部会長、副部会長、それぞれの担当ということになるが、事務局の方で大胆に言ってください。委員会の刊行物になりますので、事務局にはぜひ大胆にやってほしい。執筆者それぞれに色があるから、わがままな文章が寄せ集めになったら、市史としての一貫性というか、言葉遣いなんかも統一できるように願います。

委員 正誤表、240カ所ぐらいあるものを分析してみた。特定の人が思い込みで間違ふ。地名とか遺跡名とか、パソコンで変換し間違えたらもうその人は全部そうになっているとかあるので、著者の校正はあまり信用しない方がいいんじゃないか。事務局が読者となって通覧して思い切って直したら。

#### ◇協議事項 (2) その他

事務局 次回、編さん委員会の日程、事務局としては、2月ごろに開催をと考えている。改めて日程の調整をさせてもらう。

委員 よその事例をみると会議をするたびに簡単な議事録をネットで公開してるところもある。ネット上でそういうのが全部出てるというようなものがあれば、市民はいつでも遡って見れるし、職員も自分が確認したいときに綴りを全部くるよりはネットで検索できたら

楽だと思う。すぐの対応は難しいけれど何か考えてもらえたら。

委員 古写真データの整理も結構やってくれてるが、どういう写真なのかをお聞きできとけば。巻頭カラー、巻頭の写真にも使えるようなものなのか、それとも広報のデータ、写真のような感じで、近現代の本文中に挿入できるようなタイプなのか、どんな写真があるのか、点数どのくらいとか共有できれば。

事務局 郷土博物館の方にもあるんですが、歴史まちづくりの方で使用したとか、参考に使った写真が8ギガほどデータにしてある。事務局の方に預けているので、何らかの形で近現代部会の方には提出するようになるかと思う。

委員 博物館がかなり古写真を持ってるし、図書館も集めてる、戦争関係は人権の方で集めてたりとか。バラバラになっているものをどっかで統一して写真センターみたいなことをこの機にできないか。データだから集めておくのは不可能ではないと思う。全部を公開できないにしても、せめて職員や市史関係者は閲覧できるみたいになれば非常に助かる。

事務局 アーカイブとして、例えば図書館の方で一元管理するとか、そういうことも考えられると思うので検討させてもらいたい。

委員 通史編の写真に使える可能性があるものがたくさんある気がするので、そういう情報を共有できるような手だては、ぜひあるといい。

副委員長 副委員長あいさつ

事務局 第1回津山市史編さん委員会を閉会（14:53）